



Behind the Defense.

日本と世界の架け橋として



防衛省
MINISTRY OF DEFENSE



〒162-8801
東京都新宿区市谷本村町 5-1
[連絡先]
防衛省大臣官房秘書課
TEL.03-3268-3111 (内線 20207・20218)

防衛省
本省内部部局 専門職
採用案内

Message from
Vice-Minister of Defense

防衛事務次官からの メッセージ

言葉、文化、そして想い。

古い世代から新しい世代へ受け継がれることで歴史は巡り、
紡がれてきました。

そしていま、歴史に新たな1ページを記しはじめたみなさん。

これからどんな未来を描こうとしていますか。

その未来で、あなたの家族や友人、見知らぬ誰かの

何気ない日常は守られていますか。

防衛省は、国家の平和と独立を守り、国の安全を保つという
崇高な使命を担っています。

そして、この使命を果たすためのアプローチは
時とともに移ろうものです。

しかし、いつの時代も防衛省の仕事の幹を支えるのは、
未来に対する職員一人ひとりの揺るぎない覚悟と
強い責任感です。

変化の著しい国際情勢、進化し続ける技術、
交錯する多様な価値観。

この時代に、傍観者ではなく当事者として、
私たちの使命を継ぐ“あなた”が必要です。

あなたの知性と情熱、

そして高い志が、「誰かを守る」力になる。

その舞台が防衛省です。

その道は決して平坦ではありません。

しかし、私たちは決して一人ではありません。

ともに歩み、ともに紡ぐ未来へ。

あなたの未来への一步を、心より歓迎いたします。

防衛事務次官

大和 太郎



CONTENTS

組織概要

02 事務次官メッセージ

04 防衛省の任務

05 防衛省専門職とは

06 組織図

キャリアパス

08 キャリアパス

10 職員紹介

特集1

14 若手職員に聞くQ&A

業務紹介

16 防衛政策

17 日米同盟

18 同志国との連携

20 防衛力整備

21 自衛隊の運用

22 宇宙

23 サイバー

24 インテリジェンス

25 在日米軍と地方自治体

26 防衛装備・技術協力

27 採用・人事

28 高官通訳

29 他省庁への出向

海外での活躍

30 海外勤務

31 海外留学

特集2

32 次期戦闘機の日英伊共同開発

勤務環境

34 ワークライフバランス

採用情報

35 試験概要／採用Q&A

防衛省の任務

防衛省・自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つことを使命とし、国民の生命・財産と我が国の領土、領海、領空を守り抜くための取り組みはもちろん、国内外での大規模災害や国際平和協力活動を含む様々な事態に対応しています。

日本を取り巻く安全保障環境



国際社会が戦後最大の試練の時を迎える中で日本は

我が国周辺の安全保障環境は世界的にも特に厳しく、欧州で起きていることはこの地域でも起こる可能性があります。「力による一方的な現状変更」を抑止するためには、相手の能力に着目しつつ、新しい戦い方に対応できる防衛力を備えた国家になる必要があります。

3つの防衛目標

力による一方的な現状変更を許さない安全保障環境を創出
▶G7国防相会合 (2024年10月)



力による一方的な現状変更やその試みを、同盟国・同志国等と協力・連携して抑止・対処
▶日米共同ヘリボン戦闘 (2024年7月)



我が国への侵攻が生起する場合、我が国が主たる責任を持って対処し、同盟国等の支援を受けつつ、阻止・排除
▶令和6年度陸上自衛隊演習 (2024年10月)



3つのアプローチ

我が国自身の防衛体制の強化

▶次期戦闘機イメージ



日米同盟の抑止力と対処力の強化

▶日米防衛相会談 (2026年1月)



同志国等との連携の強化

▶第12回拡大ASEAN国防相会議 (2025年11月)



防衛省専門職とは

国際社会の平和と安定のため、我が国が果たす役割が大きくなる中、防衛省における専門職の活躍の場は広がり続けています。本省内部部局、陸・海・空自衛隊、情報本部、地方防衛局及び防衛装備庁において、高い語学力とグローバルな視野を活かし、国防の一翼を担っています。

採用言語と業務内容について

防衛省専門職では以下の機関での採用を予定しています。採用言語と業務内容がそれぞれ異なりますので、ご確認ください。採用言語は年度によって異なりますので、必ず防衛省HPでご確認ください。

機関	採用言語	業務内容	主な勤務地
本省内部部局及び防衛装備庁	英語	【本省内部部局】 <ul style="list-style-type: none"> ● 国際的な防衛行政に関する企画・立案 ● 日米防衛協力 ● 諸外国との防衛協力・交流 ● 国際平和協力活動 ● 防衛装備行政及び防衛装備品の開発事業に関する政策の企画・立案 ● 在日米軍(司令部)及び関連地方自治体との折衝等 ● 高官通訳(大臣等) 【防衛装備庁】 <ul style="list-style-type: none"> ● 輸入調達業務 ● 防衛装備行政及び防衛装備品の開発事業に関する政策の企画・立案 ● 防衛装備・技術協力 ● 防衛装備品の国際共同開発事業等 	市ヶ谷
陸・海・空自衛隊	英語、ロシア語、中国語、朝鮮語、フランス語	<ul style="list-style-type: none"> ● 自衛官等に対する語学教育 ● 報道や書籍などの海外資料の収集・分析・翻訳、情勢ブリーフィング ● 高官通訳(自衛隊幹部等) 	市ヶ谷または駐屯地・基地
情報本部	英語、ロシア語、中国語、朝鮮語、フランス語、アラビア語、ペルシャ語、インドネシア語	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際関係、地域情勢(政治・経済・外交・文化・民族問題・最新技術等)、軍事情勢に関する情報収集・分析等 	市ヶ谷
地方防衛局	英語	<ul style="list-style-type: none"> ● 在日米軍(現地部隊)及び関連地方自治体との折衝 	各地方防衛局

本省内部部局採用専門職とは

本省内部部局は、防衛省・自衛隊の司令塔として日本の安全保障政策を策定しています。本省内部部局で勤務する専門職は、日米同盟の強化、同志国等との連携の深化、国際平和協力活動、防衛装備・技術協力、在日米軍に関する政策等、国際的な安全保障政策の企画・立案を担うとともに国際協議での通訳としても活躍しています。若手のうちからその高い語学力を発揮する場が多く、海外出張や海外留学、海外勤務、高官通訳のチャンスもあります。日本をベースにしながら世界で活躍できるフィールドがあるのが、本省内部部局採用専門職の特徴です。

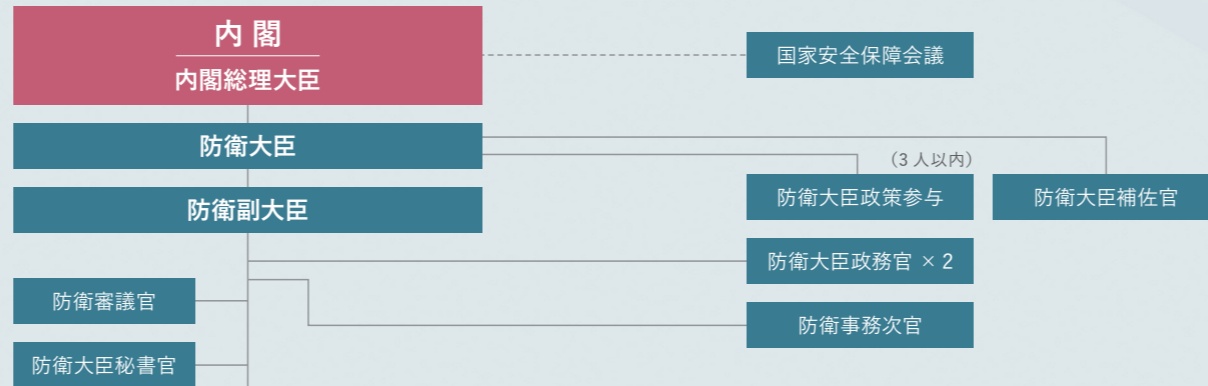
本冊では、キャリアパスに沿って職員を紹介しているほか、業務内容別にも紹介しています。

組織図

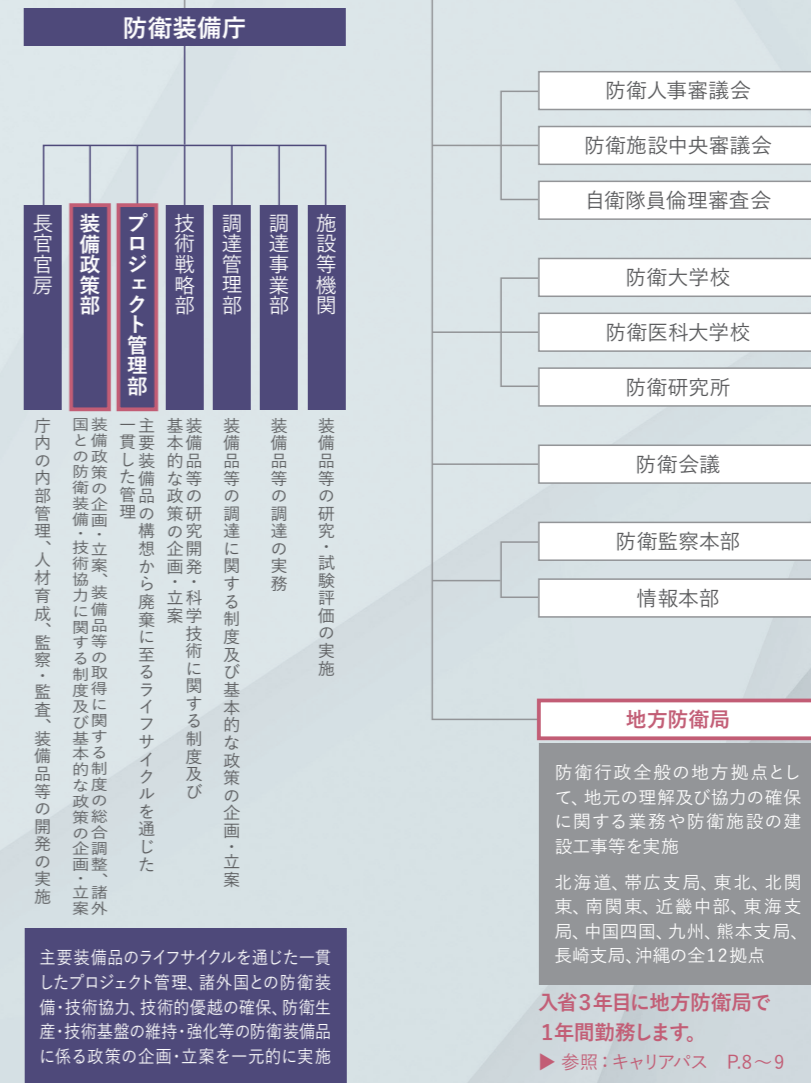
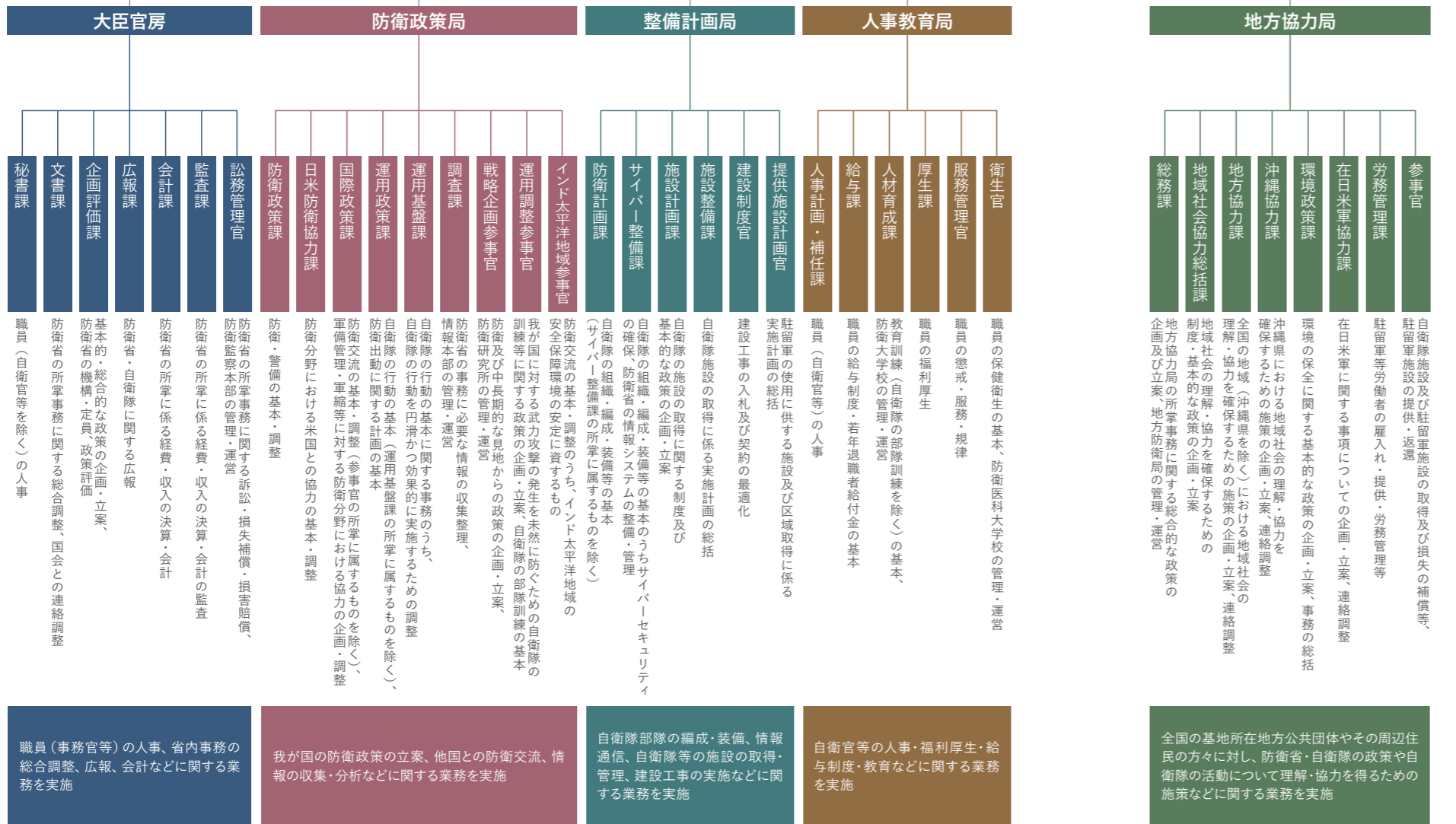
防衛省には、安全保障という大きな責任を果たすミッションがあります。実力組織である陸・海・空各自衛隊を中心に、防衛大臣を政策的観点から補佐する本省内部部局、統合幕僚監部、陸・海・空各幕僚監部、防衛装備庁のほか、防衛大学校、防衛医科大学校、防衛研究所、情報本部、防衛監察本部、地方防衛局など様々な組織で構成され、それぞれが各部局と連携しながら、国防にあたっています。



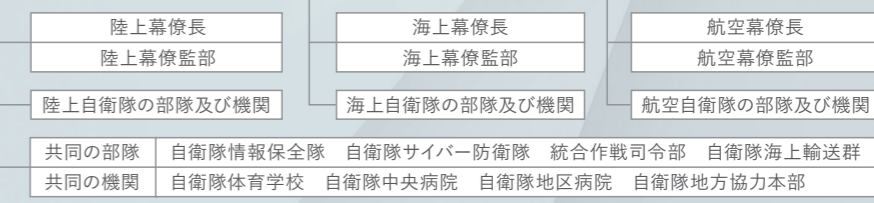
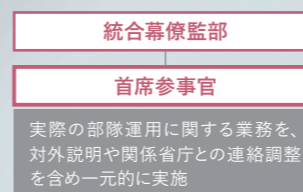
防衛省（東京都新宿区）



内部部局



本省内部部局採用の専門職員が配属される可能性のある部署



本組織図は組織の特徴等を表現するためのもので、防衛省の組織全てを精緻に表したものではありません。(2026年1月時点)

キャリアパス

入省1～2年目は東京都市ヶ谷にある本省内部部局において、1年に1ポスト、合計2ポストを経験します。
 3年目は日米同盟の現場を知るために在日米軍が所在する地方防衛局で勤務します。
 4年目以降は、本省内部部局をベースに、概ね2～3年ごとに異動し、キャリアを重ねていきます。

多彩な研修制度で、一人ひとりをバックアップ

様々な職種の職員とともに防衛省職員が身に付けておくべき知識やスキルについて学ぶ統一研修のほか、キャリアアップに必要な研修が用意されています。

防衛省内研修・人事院研修に加えて外部研修を活用してスキルアップを実現することができます。

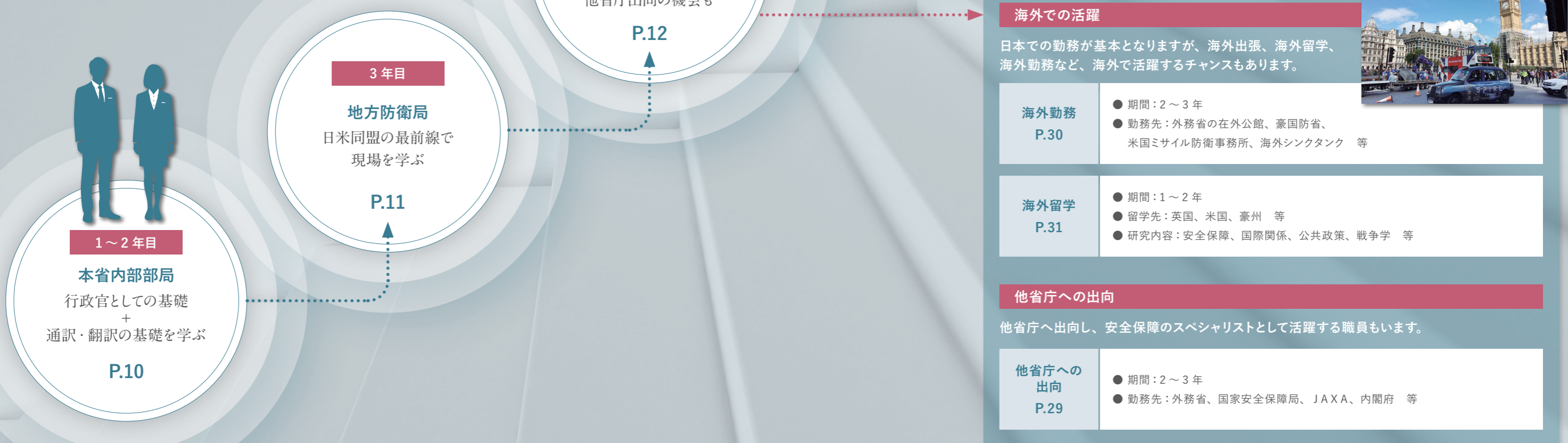
専門職ならではの外部研修として、通訳技能の取得・向上のための英語通訳研修があります。

初級から上級まで、職員のレベルに応じて民間の通訳学校で研修を受けます。

防衛省主催	人事院主催
<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修 係員級研修 係長級研修 管理職研修 	<ul style="list-style-type: none"> 係員級研修 係長級研修 課長補佐級研修 国際コース
外部研修	
<ul style="list-style-type: none"> 通訳研修 米国シンクタンク研修 	



通訳研修



海外での活躍

日本での勤務が基本となりますが、海外出張、海外留学、海外勤務など、海外で活躍するチャンスもあります。



海外勤務 P.30	<ul style="list-style-type: none"> ● 期間：2～3年 ● 勤務先：外務省の在外公館、豪国防省、米国ミサイル防衛事務所、海外シンクタンク 等
海外留学 P.31	<ul style="list-style-type: none"> ● 期間：1～2年 ● 留学先：英国、米国、豪州 等 ● 研究内容：安全保障、国際関係、公共政策、戦争学 等

他省庁への出向

他省庁へ出向し、安全保障のスペシャリストとして活躍する職員もいます。

他省庁への出向 P.29	<ul style="list-style-type: none"> ● 期間：2～3年 ● 勤務先：外務省、国家安全保障局、JAXA、内閣府 等
------------------------	---

職員紹介 / 1年目

語学力と調整力で 日米同盟を着実に支える



日米間調整の要として 共同訓練の実現に貢献

日米共同訓練等を計画どおりに実施するための日米合意の締結に向けて、在日米軍司令部や省内の関係部署と調整を行っています。この合意手続きは閣議を伴う政府間の合意であり、きめ細やかな調整が不可欠です。大変なことも多いですが、その分自分が担当した訓練が実現した際には、達成感も大きいです。

志望者へのメッセージ

防衛省でもAI活用は進んでいますが、同盟国や同志国との緊密な連携のためには、AIでは補えない、人同士の丁寧な調整がますます重要となっており、実践的な語学力を備えた専門職の役割は増えています。皆さんの語学力を、我が国の防衛と安全保障のために発揮してみませんか。

職員紹介 / 2年目

平和への貢献が 防衛省で働く最大の魅力



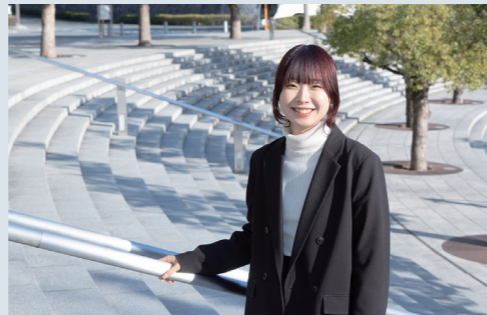
スペシャリストとジェネラリストの 両面を兼ね備えた存在へ

日本や世界の平和に貢献できることは、防衛省で働く最大の魅力であり、日々の業務が国の安全保障に繋がっていると実感できることに誇りを感じます。防衛省の業務が多様化している中で、専門職として求められる知識や能力を磨くだけでなく、行政官としての経験も積み、スペシャリストとジェネラリストの両面を兼ね備えた存在となることが現在の目標です。

志望者へのメッセージ

私の志望動機は「日本の平和を守りたい」というものですが、入省後の今も、その思いが原動力となっています。安全保障や語学への興味など、きっかけは何でも構いません。ぜひその一歩を踏み出してみてください。皆さまと共に働ける日を、楽しみにしています。

地方協力局 地方協力課 係員
2025年入省



1年目 地方協力局地方協力課(現在)

日米間の合意手続きには多くの組織や部署が関わり、調整には時間と手間を要しますが、担当した日米共同訓練の実施が報道されるたび、日本の安全保障や日米同盟の維持・強化に貢献できているというやりがいを強く実感しています。訓練の視察や在日米軍との交渉を通して、安全保障の現場を学べることも、この仕事ならではの魅力です。在日米軍との会議では通訳を務める機会も多く、自身の技術不足を痛感することもありますが、先輩職員の温かいサポートに支えられ、着実に業務を進めることができます。今後はさらに通訳技術を磨き、米国をはじめとする諸外国との円滑な交渉に貢献するとともに、語学業務にとどまらず幅広い分野に挑戦し、国の安全保障に寄与していきたいです。

防衛政策局 調査課戦略情報分析室 係員
2024年入省

1年目 大臣官房広報課

SNSを活用した情報発信業務に携わりました。情報発信に当たっては、関係課と事前に綿密な調整を行い、英文を含む発信文を入念に確認します。特に他国との防衛相会談や多国間協議など、ニュースでも取り上げられるような案件の発信を無事に終えられた際は、国民と防衛省の懸け橋としての役割を果たせたようで非常にやりがいを感じました。

2年目 防衛政策局調査課戦略情報分析室(現在)

世界各国の軍事情勢について情報収集・分析を行っており、特に情勢が大きく動いた際には、省内外の関係部署や高官、首相官邸などへ速やかに情報を提供するため、迅速かつ正確な対応を求められます。北朝鮮から弾道ミサイルが発射された際など緊張感が漂う場面も多々ありますが、世界や社会の動きを肌で感じることができる点がこの部署の大きな魅力です。また、若手でも担当業務を任せてもらえる環境があり、私は北アフリカを除いたアフリカ諸国の軍事情勢に関する動向を追う日々を過ごしています。

職員紹介 / 3年目

「自分事」として現場と向き合い 語学と経験を糧に専門性を磨く



日米同盟の最前線でプロジェクトの 達成に立ち会う感動

沖縄本島北部の離島に位置する米軍施設の伊江島補助飛行場にて、米側による滑走路を修復するプロジェクトの調整に携わりました。地元住民の生活を考慮しながらプロジェクトを進めていくことが最重要課題でしたが、滑走路修復工事完了後、日米の関係者と共に米C-130輸送機に搭乗し、滑走路に着陸する瞬間に立ち会えたことは胸が熱くなる経験でした。

現場に寄り添い、 地域の声と真摯に向き合う

地方防衛局勤務の大きな魅力は、それぞれの事案を「自分事」として捉え、地域に根差した連絡調整に深く携われる点です。実際にその土地で生活を送り、地域特有の課題や住民の方々のニーズを肌で感じることで、デスクワークだけでは気づけない問題意識の種が見えてきます。多い時には週3、4回は地元や在沖米軍施設へ足を運び、調整業務にあたります。現場で相手のわずかな表情の変化や温度感に触れ、粘り強く対話を重ねる中で物事の背景を深く読み解くプロセスは、まさに地方防衛局勤務の醍醐味です。

高官通訳と海外勤務を経験し、 独自の切り口を持つ防衛事務官へ

私の目標は、「高官通訳としての経験を積むこと」と「海外勤務に挑戦すること」です。一事務官として日々の業務に向き合いながらも、高官通訳として防衛省全体の業務を幅広く理解し、政策の最前線に触れられるのは、専門職ならではの特権だと感じています。そして、海外勤務など多様なポストを経験することで、国際的な視点と自分らしい切り口を備えた防衛事務官として成長し、組織に貢献していきたいです。

志望者へのメッセージ

私の就職活動の軸は「日米同盟」でしたが、入省後、防衛省の業務の幅広さを実感しました。携わり方は違えども、自衛官と事務官等が国を守る責任感と誇りを分かち合いながら働く環境は、非常に心地よいものです。現時点でどのように国防に携わりたいかが明確でなくても、あなたならではの向き合い方がきっと見つかります。

沖縄防衛局 企画部連絡調整課 係員
2023年入省

1年目 地方協力局在日米軍協力課

日本に所在する在日米軍施設・区域全体を網羅的に総括する部署で、毎月実施する日米合同委員会のとりまとめを担当しました。時には米側と粘り強い調整が必要でしたが、委員会にて合意する文書が将来にわたり日米の道筋になります。3年目の地方防衛局勤務で、過去に取り交わされた合意文書を基に計画が進んでいることを目の当たりにし、1年目に携わっていた業務の重要性を実感しました。

2年目 防衛政策局防衛政策課

目まぐるしく変化する安全保障環境に対し、防衛省が押し進める政策の「軸」を他省庁・関係部署との協力の末に作り出していく部署です。防衛省幹部の声も届きやすく、省全体としての方針が肌で感じ取れ防衛事務官としての意識が高まりました。英語が堪能な方が多いですが、専門職は自分1人だったため国際関係の業務に携わり海外出張で現場に行かせていただく機会も多く、興味のある分野に携われとても刺激的な毎日でした。

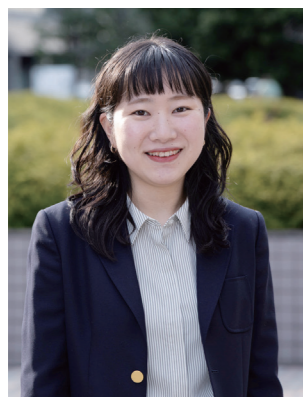
3年目 沖縄防衛局企画部連絡調整課(現在)

業務もプライベートも充実した日々を過ごしています！



職員紹介／主任級

日本の防衛と国民の安全に直結しているという自負



困難を乗り越えた先にある何にも代えがたい達成感

通訳を担当した協議が即座に報道され、それを目にしたときや、通訳業務以外でも他国との合意、予算承認といった目に見える目標を達成したときに大きなやりがいを感じます。あらゆる業務が日本の防衛、すなわちこの国のすべての人のためになっているという自負が、何にも代えがたい達成感と日々の原動力になっています。

志望者へのメッセージ

防衛という分野は堅苦しく踏み込みにくい印象を持たれがちですが、防衛省のどのような業務であっても、その本質は人と人との協力とコミュニケーションにあります。防衛省だからといって身構える必要は全くありません。肩の力を抜いて、ぜひ自分らしい姿でチームに加わっていただければと思います。

職員紹介／係長級

深い専門性と広い視野 バランスとして国防を支える



「専門性」と「俯瞰力」を活かし防衛政策に貢献

個別案件の担当や通訳をする上では案件自体を深く理解する必要があり、高い専門性が身に付きます。同時に、こちら側だけでなく相手方の主張の背景も理解する必要があり、双方の言語を理解できる専門職は俯瞰的な立場としてバランスの役割も求められます。専門性と俯瞰力の両方を上手に活用し、防衛省の政策を支えていくのが専門職の仕事の醍醐味です。

志望者へのメッセージ

語学を使う仕事は星の数ほどあれど、語学を駆使して安全保障業務に専従できるのは防衛省専門職ならではの、通常行くことができない場所や得難い知識に若手のうちから触れられる機会も多く、知的好奇心を満たしながら国に貢献できる魅力的な環境です。

防衛政策局 日米防衛協力課 主任
2022年入省

1年目 防衛装備庁プロジェクト管理部 事業監理官(航空機担当)付

航空機の海外移転や次期戦闘機に関する語学業務に従事しました。ある英国の方の英語に苦戦したこともありましたが、会議を重ね信頼を築き、年度末には納得のいく通訳を実現。多様な案件に挑んだ経験は、今も大切な財産です。

3年目 中国四国防衛局企画部地方調整課

岩国航空基地などの米軍施設や地元自治体との調整に従事しました。基地への問い合わせや地元の生活に密着した会議での通訳、演習場での連絡業務など、現場の最前線で日米の運用を「見て、作る」一員であることを実感。新鮮かつ充実した一年でした。

4年目 防衛政策局日米防衛協力課(現在)

大臣を始めとする高官の通訳や米国政府・企業関係者との面会調整を担当しています。防衛協力が多様化する中で日米同盟が果たし続ける役割を俯瞰できる立場にあり、代替のきかない業務にやりがいを感じます。



防衛装備庁 プロジェクト管理部事業監理官(艦船担当)付 係長
2014年入省

3年目 沖縄防衛局企画部地方調整課 連絡調整室

米軍機による騒音や事故に関する対米調整を担当していました。米軍との距離が近い地方防衛局では、専門職として多くの成長・活躍の機会があります。

8年目 整備計画局防衛計画課

弾道ミサイル防衛(BMD)担当として、自衛隊に配備される各種BMDアセットの取得・配備に携わりました。国民の安全に直結する体制構築に直接貢献でき、他では得られない達成感と共に防衛省職員としての責任を再認識しました。

12年目 防衛装備庁プロジェクト管理部 事業監理官(艦船担当)付(現在)

日本の「もがみ」型護衛艦の能力向上型の豪州への輸出に関する契約を取りまとめる部署で勤務しています。日本において過去最大規模の防衛装備品輸出事業の成功に向け、専門職チームの一員として豪州政府との交渉・調整に心血を注いでいます。



職員紹介／部員級

高官通訳の重責を糧に 絶えぬ精進が築いた今の自分



国際舞台で伝える責任 通訳業務の唯一無二のやりがい

高官通訳業務では、国際情勢や日本の防衛政策に常にアンテナをはり、それを英語で的確に発信することが求められ、大きな責任を伴います。しかし、自分の訳出が相手に伝わる最終的な内容となるという唯一無二のやりがいがあります。高官通訳業務を通じ、常に精進する気持ちを持ち続けられたことが今の自分に繋がっています。

▶日英首脳会談通訳時の写真(右下)

志望者へのメッセージ

防衛省の国際業務は質・量共に急増しており、語学力を活かして活躍できる機会は私が入省した15年前と比べ格段に広がっています。防衛・軍事の専門用語も実務に身を置けば自然と身につくため、心配はいりません。可能性に満ちた職場で、皆さんと共に働ける日を楽しみにしています!

職員紹介／管理職

多国間協力を推進し 防衛政策を世界へ発信



可能性を秘める防衛協力 いつまでも記憶に残る達成感

他国との間で協力関係を積み上げる事業は広がりや深みの可能性を秘め、継続性がある魅力的な任務とも言えます。一方で国際関係、特に国防当局間の調整時には、時折思いがけないところで意見の折り合いがつかず困難な課題にぶつかることもあります。成果となったときの達成感はいつまでも記憶に残ります。

志望者へのメッセージ

様々なきっかけで防衛省に関心を持たれ、ご自身がどんな役割を担い、取り組んでみたいか、将来のイメージを描き始めていることでしょうか。組織において個々の貢献は貴重です。国の防衛・安全保障政策の分野での勤務への志あふれる方々が新たに加わる日を心待ちにしております。

防衛政策局 インド太平洋地域参事官付 部員
2011年入省

8年目 防衛政策局国際政策課

ボストン大学留学後、西欧諸国との防衛協力・交流を担当し、自らの手で協力を推進するやりがいを感じました。また、大臣通訳に加え、総理通訳や国家主席との会談の通訳という重責を担うことができたのも印象深い思い出です。

11年目 国家安全保障局(出向)

外務省、警察庁、経済産業省等から出向する職員と一緒に勤務しました。安全保障業務をより包括的な立場から俯瞰して見ることができ、とても新鮮な気持ちで業務に当たりました。特に、当時の国家安全保障局長の訪米に随行し、ホワイトハウスで米NSAとの協議に同席できたことは、一生ものの経験です。

14年目 防衛政策局 インド太平洋地域参事官付(現在)

育休明けに配属され、日比円滑化協定の交渉から署名、また発効後はその運用にも携わっています。家庭との両立に悩みつつ、フィリピン以外との防衛協力にも最大限関与し、成果を積み上げています。



日英首脳会談(2025年8月)

防衛政策局 インド太平洋地域参事官付 国際安全保障政策室 室長
1999年入省

14年目 外務省(在インドネシア大使館)(出向)

現地の安全保障情勢把握のための活動や防衛交流・協力関連の調整支援にはひと工夫が必要でした。2025年の大臣出張随行時、当時の現地スタッフとの再会を果たし「お帰り!」と迎えられた際は、信頼関係の尊さを実感しました。



24年目 大臣官房秘書課(防衛審議官付)

防衛審議官の秘書官業務を担当。2年間でのべ30か国への出張に同行し、適切な情報のインプットと意思決定支援を担いつつ、日々和やかに楽しく勤務できたことが思い出深いです。

27年目 防衛政策局インド太平洋地域参事官付 国際安全保障政策室(現在)

大臣級の安全保障対話から専門家レベルの分野別会合まで、多国間の防衛協力や国際機関との連携フレームを活用し、日本の防衛政策や他国との協力推進の施策を発信するという貴重な舞台の演出家集団のような部署で室長を務めています。

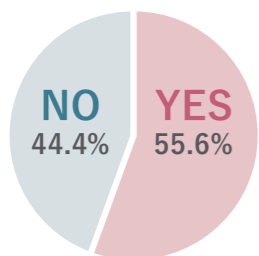
若手職員に聞くQ&A

入省1～2年目の若手職員にアンケートを実施しました!



左から
 整備計画局サイバー整備課
 2025年入省
 防衛装備庁装備政策部国際装備課
 2024年入省
 大臣官房広報課
 2025年入省
 地方協力局在日米軍協力課
 2024年入省
 統合幕僚監部首席参事官付
 2024年入省

Q. 入省前と入省後のギャップはありましたか?



YESには
 若手への裁量の
 大きさに驚く声
 が多いようです!



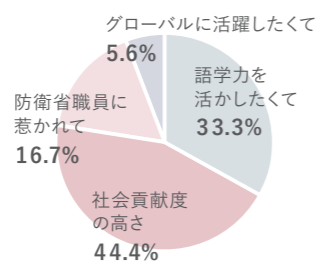
YESと回答した人の理由

- 語学力を必要とする業務だけでなく、部内外との細かな調整や資料作成など、行政官として事務面の能力も活かして活躍できることに驚いた。
- 想像していたよりも若手のうちから裁量がある。
- 想像以上に柔軟で多様な経験ができる職場。休暇取得やテレワークが推奨され、若手でも幅広い業務に挑戦させてもらえる環境。特に、1年目に防衛省代表としてイギリスの国際航空展示会に出張した経験は非常に印象に残っている。
- 他国との協力・交流、装備品、国会業務、広報、予算等、様々な業務があることに驚いた。
- 入省前に外から見ていた世界と入省後内部で実際に携わる世界は全く別物だった。自分の課のことでさえも毎日新しい学びがある日々を過ごしている。また日々のニュースや進歩が業務に関わってくる点も面白い。
- 想像していたより休暇が取れる。

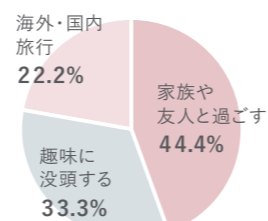
NOと回答した人の理由

- 説明会や採用面接の中で職員の方とたくさんお話しをさせていただき、そこで得たヒントを元に、防衛省で働くということがどんな感じかを想像していた。
- 説明会などで聞いてイメージしていたとおり、若手のうちから主体的に仕事に取り組んでいる。
- 説明会等に参加していて入省前から情報収集ができていたため。

Q. 入省の決め手はなんですか?



Q. 休暇をどのように過ごしていますか?



Q. 入省後に感じたやりがいを教えてください。



高官級会議の準備は緊張の連続ですが、防衛外交の一端に貢献できたと実感した瞬間に大きなやりがいを感じます。また、自身の通訳を通じて調整が円滑に進んだ際など、語学の専門職として実務を支え、目に見える成果を出せた時にも、深い充足感と誇りを感じます。



高度な専門性が求められる課で、1年目から語学力を活かし貢献できる点に魅力を感じます。学びを形にして周囲に感謝されたり、担当案件が公表という成果に結びついたりした際の喜びは格別です。知識を実践で役立てる経験を積み重ねることで、日々自身の成長を実感しています。



自身の企画した案件が防衛省のSNSで発信された際に充実感を感じました。特に動画の構成から撮影、編集までを自ら手掛けたコンテンツが公開され、上司からも高い評価をいただいたことは自信に繋がりました。自らの発信が組織の広報に貢献できる喜びを再確認しました。



初期構想から携わり作成した資料が省の公式文書として世に出され、ネットニュース等で流れるのを目にするたび、仕事のスケール感の大きさを実感します。自分の手掛けた業務が国を動かし、社会へ直接届く手応えを得られるのは、国家公務員ならではの魅力です。

Q. 未来の後輩へのメッセージをお願いします。



入省して2年ですが、新領域での防衛や防衛装備・技術協力等既に幅広い分野の仕事を楽しんでいるところです。国防に少しでも興味がある方、日本の独立と安全を守る最前線で一緒に仕事しませんか!



特に日本の安全保障政策や運用に携わる仕事がしたいと感じている方がいれば、防衛省はまさにその中心であり、「同業他社」が存在しない存在だと思っています。日々ニュースを見ていて、安保・防衛関連のニュースについて興味を惹かれてしまう自分がいるのならば、ぜひ挑戦してみてくださいと思います。



防衛省の仕事はすべて国の安全保障に直結しており、ここでしかできない経験が数多くあります。語学力を活かし、日本の平和と安全を守るという大きな使命を胸に、一緒に働けることを楽しみにしています。

職員のある一日



2025年入省
 整備計画局サイバー整備課

10:00 通訳研修

週2回、都内の通訳学校に通っています。安全保障関連の実践的な通訳訓練をしています。

12:00 昼休み

通訳研修後、同期とランチに行きます。食堂で、同僚とおしゃべりしながらよくパスタを食べています。

13:00 出勤

出勤後、メールを確認しその日のタスクを整理します。

14:00 総括業務

他課や他省庁、企業との調整業務を行います。

15:00 オンライン会議

サイバーについて他国と話し合うオンライン会議に参加します。事前経緯などを調べ、準備をしてから会議に臨みます。

17:00 外国との調整

上司と対応方針について相談しながら、会議の日程やアジェンダなどを外国政府等と調整します。

18:00 資料更新

会議で使用予定の資料の情報更新、翻訳をします。

19:00 退勤

同期と食事に行きます!



向こう10年の防衛政策を決める大きな流れに携わっている実感。

防衛政策局
防衛政策課
2024年入省



日本と国際社会の平和と安定に貢献できる唯一無二の仕事。

防衛政策局
日米防衛協力課
2013年入省

防衛政策 Defense Policy

防衛政策の舵取りを担い 日米協議と三文書改定を支える

国際感覚と安全保障の知見を 防衛力の構築に活かす

幼少期に海外で暮らしていた経験があり、グローバルな交友関係があったので、英語を使う国際的な仕事に昔から関心を持っていました。大学時代に国際政治や安全保障を学び、特に防衛力の構築に携わりたいと思うようになりました。国防という誰にとっても利益となることを実現するという点も大きな魅力でした。



政策検討から通訳まで 防衛力強化の一翼を担う

防衛政策課は防衛政策の舵取り役として、省内外との幅広い調整を担っています。私は防衛力強化に向けた中長期的な防衛政策を検討する班に所属し、中でも日米協議を中心とした渉外業務を担当しています。協議内容を踏まえて政策的観点からの課題を検討したり、通訳として協議に参加したりと、英語を駆使する場面も多いです。



戦略三文書改定に携わり 日本の安全保障を形作る

我が国の安全保障政策全般の基盤となる戦略三文書の改定に向けた検討を進めています。防衛大臣が主導する会議で、自分が作成に携わった資料がテーブルされ、省内幹部の緊張感のある議論を経て、その資料が世の中に公表される。向こう10年の安全保障政策を決める大きな流れに携わられていることを日々実感しています。



志望者へのメッセージ

激しい情勢変化や目まぐるしい技術発展によって、対応すべき安全保障上の課題は単に増えるだけでなく複雑になる中で、諸外国との協力分野も広がっています。そのような状況の中で、語学力を強みとしていることは、様々な案件に関わる機会を掴めるということであり、行政官として豊かな経験を積むことにも繋がっていくと思います。ぜひ一緒に働ける日をお待ちしています！



日米同盟 Japan-U.S. Alliance

高度な調整力で日米同盟を牽引し 日本の安全保障を最前線で支え抜く使命感

外交を支える“裏付け”としての防衛 語学力で支える安全保障

大学で領土問題や国際法を学ぶ中で、領土を守ることが国際交流や経済活動の土台であると実感しました。国際法は国が作り支えるものであり、外交には防衛力の裏付けが必要です。日本の平和と安定を根底から支える防衛省において、語学力も活かしながら勤務したいと考え、防衛省専門職を志望しました。



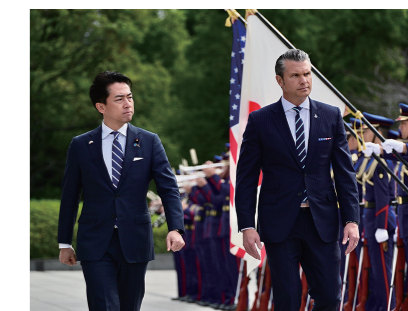
日米首脳行事の現場 同盟を最前線で支える調整力

2025年10月、横須賀で行われた日米首脳による米空母訪問・演説や、防衛相会談を含む一連の行事に、日米防衛協力課の調整班員として従事しました。米大統領府や駐日米国大使館、戦争省、首相官邸や他省庁、自衛隊と綿密な調整を重ね、式典の演出から会談内容、対外発信方法まで総合的に企画・実行し、日米同盟強化を最前線で支えました。



日米同盟の基軸を担う誇り 大臣級会談の完遂と使命感

3か月で計4回の日米防衛相会談を実施しました。時差の関係もあり簡単に務まる業務ではありませんが、厳しさを増す安全保障環境下で、日米同盟の揺るぎない結束を確認することには極めて大きな意義があります。日米同盟は日本の安全保障の基軸であり、日々の業務は重大な結果を伴うという意味で、強い緊張感とやりがいを感じています。



志望者へのメッセージ

異動や年次が上がるにつれて新たな学びがありつつ、これまでの経験が活かしていると感じます。上司や同僚に支えられ、難易度が高くテンポの速い業務に向き合いながら、語学力を活かす専門職としての誇りとチームワークで、日本と国際社会の平和と安定に貢献できる唯一無二の仕事だと感じています。





高い語学力を活かし
国防の様々なフィールドで
活躍してみませんか。

防衛政策局
国際政策課
2021年入省



語学力を活かし国家の
根幹に寄与することができる
唯一無二の職場です。

防衛政策局
インド太平洋地域参事官付
2019年入省

同志国との連携 Collaboration With Like-Minded Countries

語学で国防の実現に貢献できると実感
日欧を繋ぎ、日本の安全保障を最前線で支える

大学で学んだ英語を活かし
日米の架け橋として国防に貢献

幼い頃から在日米軍が身近な環境で育ったため、在日米軍に関連した仕事に関心を持っていました。また、大学時代に学んだ英語を活かせる仕事や公共性の高い仕事を就職活動の軸として探していたところ、防衛省専門職という職業を知り、自分の専門性を活かして日米の架け橋になりたいと思ったことがきっかけです。



欧州諸国との防衛協力を推進し
日本の安全保障を支える

欧州の同志国との防衛協力・交流を推進すべく、大臣級から担当者級まで様々な会談・政策協議を準備、実施しています。私はスペイン、ポルトガル、中・東欧、EUを担当。2025年は第1回日EU局長級安全保障・防衛対話や政務官のブルガリア訪問、ギリシャ国防大臣の訪日等を実現することができ、実りの多い1年となりました。



会談を成功に導き、
事務官としての成長を実感

日米同盟の抑止力・対処力の強化や同志国との連携がこれまで以上に重要となっている中で、専門職はなくてはならない存在として頼りにされていると感じます。会談の調整には困難も伴いますが、メディアでの報道や会談の成功を通じ、事務官として大きく成長していることを実感できる、非常にやりがいのある仕事です。



志望者へのメッセージ

3年目の地方防衛局勤務では、入省時から希望していた在日米軍との連絡調整に従事しましたが、それだけでなく、これまでに国家防衛戦略等の策定や欧州の同志国との防衛協力・交流の推進等、様々な業務を経験しました。皆さんの高い語学力やグローバルな視点を活かして、国の防衛や安全保障の幅広い分野で活躍してみませんか。



同志国との連携 Collaboration With Like-Minded Countries

語学と専門性を活かし
ASEAN防衛協力の最前線で安全保障を支える

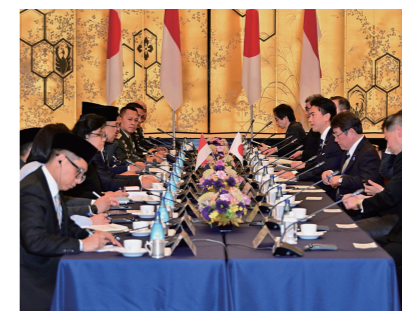
熊本地震を機に防衛省へ
語学力を活かし平和へ貢献

民間企業勤務中の2016年、熊本地震をきっかけに自衛隊の災害派遣活動を知り、国家規模の政策に携わり社会に貢献したいと強く感じました。語学力を活かして平和構築に携わりたいという思いから、安全保障分野における専門性を深めることができ、若手から政策の企画・立案に関われる防衛省を志望しました。



ASEAN諸国との協力体制
多角的な協力の具体化を担う

現在は、ASEAN諸国との二国間での防衛協力・交流の強化に向け、各国との防衛相会談をはじめとした人的交流、部隊による協力・交流、防衛装備・技術協力といった様々なツールを駆使し、関係省庁や各国のカウンターパートと連携しながら、各国との成果を発信しつつ、具体的な協力案件の促進に向けた業務を行っています。



困難な調整の先に得られる
他にはない国際貢献の実感

厳しさを増す安全保障環境において、ASEAN諸国との防衛協力は年々その重要性を増しています。新たな制度基盤の構築や協力案件の創出に向けた調整は、決して容易ではありませんが、将来的な協力拡大が見込まれる国々との防衛協力の深化の過程に主体的に貢献できることに、この上ないやりがいを感じています。また、自らが調整に携わった防衛相会談などの成果がメディアに取り上げられるなど、自分の業務が国際社会に影響を与え、日本の動向として注目される経験は、何事にも代えがたいものです。これからも、日本の安全保障の一翼を担うという強い責任感と誇りを持ち、更なる協力関係の進展に向けて全力を尽くしたいと考えています。

志望者へのメッセージ

防衛省での業務は、国際情勢の動向に左右されるなど、時に困難を伴うこともあります。しかし、日々の業務の積み重ねが、我が国の抑止力や国際的な信頼の維持に繋がることを実感でき、専門職として、語学力を活かしながら国家の根幹に寄与することができる唯一無二の職場です。日本の平和と安定を支える一員として、一人でも多くの方がチャレンジしてくれることを願っています。





行政官として広範な業務に携われる点も大きな魅力です。

整備計画局
防衛計画課
2024年入省



すべての業務が国防に繋がっているという誇りがあります。

防衛政策局
運用調整参事官付
2021年入省

防衛力整備 Defense Buildup

英語力を活かし安全保障の根幹へ 国際協議と防衛力整備を支える

学生時代から力を入れてきた語学で 日本を支える使命感

学生時代は語学の習得に励み、その能力を活かせる道を模索していました。長年の海外生活を経て、改めて日本を支えたいという想いが強まり、防衛省に関心を持ちました。ワークショップに参加して省内を見学し、国防の最前線に立つ職員の熱意に直接触れたことで、安全保障の重要性を深く理解し、入省を強く決意しました。



防衛力整備の最前線を支え 日米協議を橋渡し

防衛計画課は、日本の安全保障政策の基盤である戦略三文書の一つ、防衛力整備計画の策定と、それに基づく防衛力整備を担当する部署です。私は、防衛予算や度々報道されることもある部隊の配備に関する業務を支援しているほか、米国等との協議のため、先方との調整や通訳・翻訳業務を担当しています。



若手から国際交渉の場へ 語学と専門性で築く防衛の基盤

防衛力整備は国内だけで完結するものではなく、外国政府や企業との緊密な連携が不可欠です。私は担当者と協力しながら先方と調整を行い、面会の際には通訳として議論の橋渡し役を務めています。予算関連の専門用語や各装備品の名称など、日本語でも馴染みの薄い表現が多く日々学びの連続ですが、若手のうちから国際的で高度な意見交換の場に立ち会えることは、この仕事の大きな魅力です。他にも、海外出張への随行や、自ら翻訳した文書が公式ホームページに掲載される機会もあり、裁量の大きさに強い責任感とやりがいを感じています。日本の安全保障を支える一員として、今後も専門性を磨き、国際的な連携の深化に貢献していきたいです。

志望者へのメッセージ

日本の安全保障において、外国との協力・交流は不可欠です。防衛省には、英語力や国際感覚を活かし、若手のうちから活躍できる環境があります。専門職であっても語学業務にとどまらず、一行政官として広範な業務に携われる点も大きな魅力です。実際に職員の声に触れることで見えてくる世界がありますので、関心のある方はぜひ採用イベントにお越しください。



自衛隊の運用 Operational Policy

自衛隊員の不断の努力の上に成り立つ 平和な暮らしを守る使命感

ASEAN諸国の青年たちとの 共同生活で得た国防への志と決意

大学時代、ASEAN諸国の青年たちと約50日間の共同生活を送りました。異なる文化や価値観を持つ仲間と語り合い、歴史に向き合う中で、今ある暮らしは当たり前ではないこと、平和を守りたいという思いは皆同じであることに気づきました。同じ志をもつ仲間とともに、国を守り地域の平和と安定に貢献したいと考え、防衛省を志望しました。



志望者へのメッセージ

試行錯誤して訳した文章が初めて世に出た日も、必死に議事録を英語で取り続けた時も、先輩方や同期の助けと、全ての業務が国防に繋がっているという誇りを支えに乗り越えてきました。これからも謙虚に、ひたむきに業務へ向き合いたいです。このパンフレットを手にとってくださった皆さまと、いつか共に働ける日を心待ちにしています。



他国との連携を支える訓練調整と 安全保障への貢献

主に陸上自衛隊の部隊訓練に関する調整をしています。近年、自衛隊単独の訓練や日米共同訓練に加え、豪州や欧州諸国等との共同訓練が増加しており、訓練の目的や内容を明確に示し、関係者の理解を得ることが一層重要となっています。陸上自衛隊V-22オスプレイの訓練時には、安全性を客観的に伝えるため自ら機体に搭乗して運用を学び、説明資料を作成しました。また、2025年に陸上自衛隊が初参加したイタリア陸軍主催多国間空挺演習では、米国や欧州諸国の空挺部隊との訓練が着実に実施されるよう調整しました。複雑化する安全保障環境の下、緻密な調整を通じて訓練の円滑な実施を支え、日本の安全保障と地域の平和に貢献したいと考えています。

使命感とやりがいを原動力に 多角的な視点から安全保障を支える

様々な視点から安全保障に携われる点が、防衛省の大きな魅力です。入省5年で、他国との防衛交流や在日米軍との調整、普天間飛行場代替施設建設事業に関する通訳・翻訳等、幅広い業務を経験しました。現在は、表に出ない場面でも訓練に励む隊員の不断の努力の上に私たちの暮らしが成り立っていることを実感し、仕事の意義とやりがいを強く感じています。





語学力などの強みを発揮し、
国の安全保障を支える
大きな使命に挑戦できます。

防衛政策局
戦略企画参事官付
2013年入省



国家の安全保障の確保
という重要な使命と
直結する職場です。

整備計画局
サイバー整備課
2020年入省

宇宙 Space

宇宙政策に国境はない 多国間連携で挑む新たな防衛力

培った語学力を活かし
国の安全保障に直接貢献

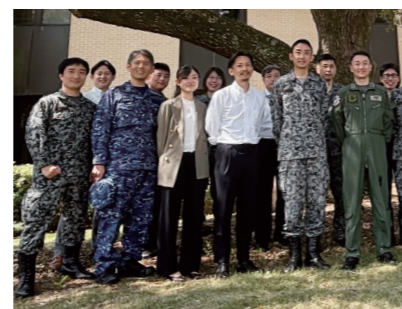
大学で政治学や国際関係論を学ぶ中で、国防は国家の根幹であり、平和な日常を支える基盤であるという意識を強く持ちました。それまで培ってきた語学力を最大限に活かしながら、日本の安全保障に直接貢献できる仕事に携わりたいと考え、防衛省を志望しました。

宇宙の安定的な利用確保には
同盟国・同志国との協力が不可欠

戦略企画参事官付は防衛省・自衛隊の宇宙領域に係る政策の企画・立案を担当しており、私は諸外国との連携・協力を担当しています。宇宙は今や国民生活に必要な不可欠であり、安全保障面でも陸・海・空を含む全領域の軍事作戦上の指揮統制・情報収集基盤の中核です。宇宙には国境の概念がありませんが、その安定的な利用確保には、同盟国・同志国との協力が必須です。

新しい分野である宇宙領域
そのダイナミクスを実感できる

宇宙政策の国際連携では、各国政府や他省庁、民間企業など多様な関係者との連携が不可欠。新しい視点や知見に触れる機会が多く、大きな学びがあります。宇宙領域は新しい分野であり、政策の企画・立案にもスピード感と柔軟性が求められ、そのダイナミクスを実感できる点が魅力。多国間会議や演習に参加する機会も多く、自分の成長を感じられる仕事です。



志望者へのメッセージ

防衛省では、多様な専門性を持つ職員が力を合わせ、変化の激しい国際情勢に向き合いながら政策を形にしています。語学力をはじめとする自身の強みを存分に発揮し、日本の安全保障を支えるという大きな使命に挑戦できる環境が整っています。皆さんと共に働き、未来の平和と安定に貢献できる日を、心より楽しみにしています。



サイバー Cyber

生活基盤を支える誇りをもって 諸外国と連携しサイバーの脅威に挑む

ワークショップで体感した
日本の安全保障を担う醍醐味

就職活動を通して、多くの人々の生活基盤を支える仕事であれば、やりがいと誇りをもって働くことができると考えました。また、入省前年に本省内部部局主催のワークショップに参加した際、日本の安全保障を担う防衛省・自衛隊の役割を認識するとともに、政策の企画・立案の面白さを感じたことで、より防衛省を志望するようになりました。



諸外国との連携を通じ
強固なサイバー防衛体制を築く

今やサイバー攻撃は国家の安全保障にとって深刻な脅威であり、これに迅速かつ確に対応するためには、米国をはじめとする諸外国と連携し、防衛省・自衛隊のサイバー攻撃対処能力を向上させることが不可欠です。私は専門職として、諸外国とのサイバーに関する協議、訓練や演習などの計画・実施に向けた調整に従事しています。



世界の動向を吸収し
サイバー防衛能力の向上に貢献

情報通信技術の急速な発展に伴い、サイバー攻撃の脅威は日々高度化・巧妙化を続けています。サイバーに関する業務に従事する職員には、絶えず変化する最新技術や国際情勢を吸収し続ける姿勢が求められ、そのスピード感に難しさを感じる場面も少なくありません。しかし、各国のサイバー政策や世界の動向について、諸外国との意見交換を通じて多角的に知見を深められる点は、防衛省専門職ならではの大きな魅力です。こうして得た最先端の知識を、防衛省・自衛隊のサイバー政策の企画・立案やサイバー攻撃対処能力の向上に還元することができるのも、強い責任感とやりがいを感じられる、他では味わえない業務の醍醐味と言えます。

志望者へのメッセージ

日本を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、諸外国との連携を推進する専門職の職責もまた拡大しています。ときに困難な仕事もありますが、国家の安全保障の確保という重要な使命と直結する職場は政府機関の中でもそうあるものではありません。みなさんがこれまで培ってきた語学力を防衛省・自衛隊で活かしてみませんか。





10年以上たった今も
日々新たな学びや気づきを
得ています。

防衛政策局
調査課情報保全企画室
2014年入省



長期にわたって国際的な
仕事に従事したい方には
おすすめの職業です。

地方協力局
在日米軍協力課
2013年入省

インテリジェンス Intelligence

語学力を礎に 国際的な情報交換を形にする仕事

米国在住と通訳研究を礎に
専門性と語学で日本を支える環境へ

幼少期を米国で過ごした経験から、英語で人と人とを繋ぐ仕事に就きたいと考えていました。大学院では言語学、通訳・翻訳理論の研究に打ち込んでいましたが、授業の一環で防衛省専門職の先輩の話聞いたことで、安全保障という専門性を身につけながら様々な業務で語学力を活かせる環境があることを知り、魅力を感じました。



外務省と連携し国際的な
情報の交換枠組みを作る

「この人ならきっと守ってくれる」と思える相手でなければ、大切な情報を安心して託すことはできません。調査課情報保全企画室は、守るべき情報を適切に扱う仕組み作りを通じ、防衛政策実行の基盤を整えています。私は外務省と連携し、外国政府等とのあいだで秘密情報を交換する際の枠組みである情報保護協定の交渉を担当しています。



提供：外務省

現場の視点を仕組み作りに活かし
国同士の絆を深める

軍事情報は機密性が高い内容も多く、国防を担う当局が情報保全に係る適切な制度やリテラシーを持っているか否かは、信頼関係の構築に大きく影響します。自分が携わった枠組みが、具体的な防衛協力案件で活用され、相手国との関係性が深まっていく。その過程を見届けられたとき、大きな達成感があります。これまで、高官通訳業務や欧米諸国との防衛協力を担う部署で情報や制度を「使う側」にいたからこそ、現在の部署では、利用者の視点に立った仕組み作りの重要性を強く実感しています。一つのテーマに対し、多様な角度から関われることも防衛省で働く面白さであり、専門性を深めることに繋がっています。

在日米軍と地方自治体 U.S. Forces Japan and Local Governments

日米間の信頼関係を礎に日米同盟を支える 確かな達成感と長く働ける仕組みがある

性別不問、世界が舞台
語学を活かし活躍できる場所

グローバルな仕事がしたいと思い新卒でメーカーに就職しましたが、男女でつける仕事に差があり、転職を考えていたところ、防衛省専門職の存在を知りました。公務員は男女平等、新卒でなくても受験ができ、特に防衛省専門職は語学を活かして世界を舞台に活躍できる仕事で、面白そうだなと思い試験に挑戦しました。



日米間の調整の積み重ねが
新たな訓練を形にする

在日米軍の新たな訓練の実現をはじめとする様々な活動について、課題等を踏まえながら、日本政府として米国政府と調整する業務を行っています。最近の例としては、日米間の様々な調整を経て、本州の演習場で初めて自衛隊と米軍の長射程ロケット砲の実射訓練を実現することができました。



米軍との信頼関係を構築し
抑止力と日米同盟の強化を支える

訓練の実現には多くの利害関係者が存在します。コンセンサスを得るためには時に厳しい交渉や調整が必要であり、双方の意見を尊重し妥結に導くためには、日頃から米軍と良好な関係を築くことも重要です。訓練が実現した際には、大きな達成感を感じました。こうした積み重ねが抑止力や日米同盟の強化に繋がっていると実感しています。



志望者へのメッセージ

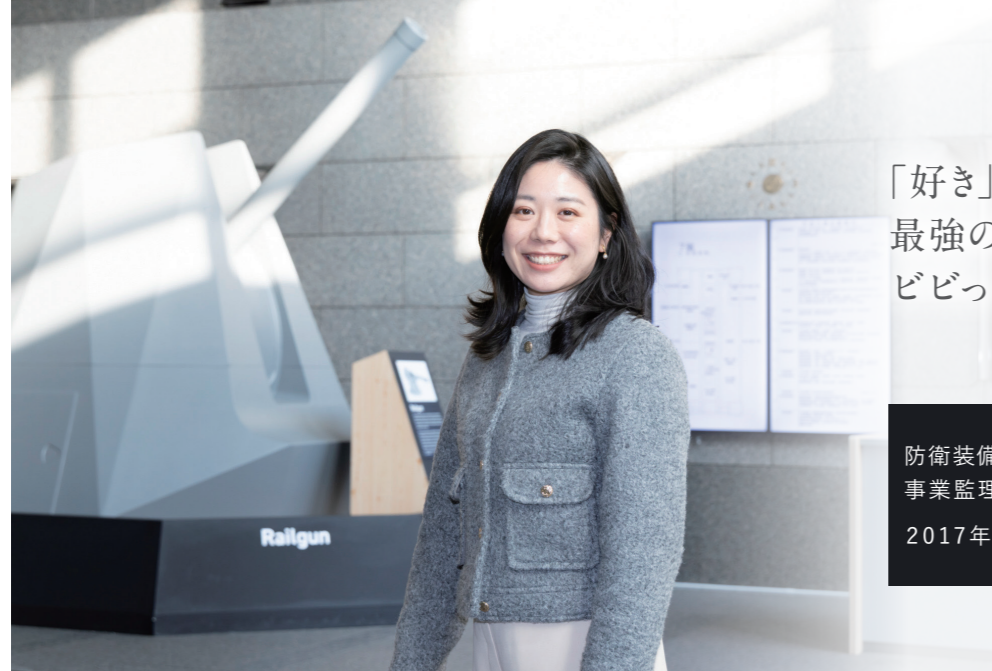
防衛省は大きな組織でありながら、安全保障環境に呼応して常に変化し続けています。生きた情報や事象に向き合うからこそ、入省から10年以上たった今も日々新たな学びや気づきを得ています。防衛省専門職としての勤務から得られる経験は、明確な目標がある方にも、これから歩み方を考えたい方にも、価値あるものになるはずです。



志望者へのメッセージ

入省以降、様々な角度から安全保障という業務に携わり、知識や専門性を身につけることができました。途中、留学や産休・育休を取得し復職しましたが、復職前と同様に責任のある仕事を与えられ、日々重要な仕事に携わるやりがいを感じています。専門性を身につけたい方や長期にわたって国際的な仕事に従事したい方にはおすすめの職業です！





「好き」という気持ちが最強の原動力になります！
ビビっ！ときたら防衛省へ。

防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官（艦船担当）付
2017年入省



専門職員が自身の能力を最大限に発揮できる環境作りに邁進していきます。

大臣官房
秘書課
2020年入省

防衛装備・技術協力 Defense Equipment/Technology Cooperation

世界を舞台に次の世代へ平和を紡ぐ
責任感と使命感を胸に防衛装備移転に挑む

語学への情熱と好奇心を
世界を舞台にした国防へ

幼いころから外国語に関心があり、次第に英語を使った仕事をしたいと考えていました。また、安全保障の分野にも関心があったことから防衛省専門職を目指すようになりました。防衛省の仕事は幅広く、また勤務地も世界各地にポストがあることから新しいもの好き（飽き性？）な自分に適していると思っています。



最新鋭護衛艦の豪州移転を
調整と交渉で実現へ導く

防衛装備庁にて、「もがみ」型護衛艦の能力向上型という艦艇を豪州へ移転するプロジェクトに従事しています。2025年8月、日本を含む4カ国の艦艇候補による熾烈なコンペを経て日本の最新鋭艦が選定されました。選定期間中は日本企業とともにプロモーションに奔走し、現在は移転実現に向けた豪州国防省との調整を担っています。



大切な人の未来を守る
平和への責任感が私の原動力

多忙な業務や海外出張により、肉体的にも精神的にも疲弊していた時期もありましたが、最もモチベーションに繋がっていたのは「自分の仕事の延長線上に、自分の娘や大切な人たちが享受できる平和な未来があるのかもしれない」という思いでした。逆に言えば、「ここで頑張らなければ後悔するかもしれない」という切実な危機感も常に胸にありました。こうした重い責任と大きな使命感をダイレクトに肌で感じられるのは、国防を担う防衛省ならではの誇りです。次の世代へ確かな未来を引き継ぐため覚悟を持って、目の前の仕事に全力で向き合っています。

採用・人事 Talent Management

人財戦略という組織の基盤を支える自負
人事の立場で人と組織の可能性を最大化

グローバルに働きながら
人々の生活を守る防衛省へ

幼少期から英語が好きで、大学時代も英語を使う仕事がしたいと考えていました。当初は外務省専門職を志していましたが、防衛省専門職の存在を知り、安全保障という人々の生活の根幹に携わることのできる防衛省をより強く志望するようになりました。日本を生活拠点にしつつもグローバルに働けて、海外留学・勤務のチャンスもあるという点も魅力的でした。



採用・育成から通訳実務まで
専門職を多角的に支える

説明会やワークショップ、採用面接の運営といった専門職の採用活動を行っています。また若手職員や内定者との人事面談を通じ、疑問や不安の解消に努めるとともに、個々の希望や適性を踏まえた異動調整を行っています。さらに、高官通訳者の手配や研修方針の策定など、通訳者育成にも携わっています。私自身も時折、通訳や翻訳の依頼を受けることがあり、現場の第一線で求められるスキルを肌で感じながら業務に励んでいます。実務者としての視点を持ちつつ、専門職がその能力を最大限に発揮できる環境作りに取り組むことは非常に意義深く、組織の基盤を支える自負を持って、これからも真摯に日々の業務に邁進していきたいです。

志願者の支えとなり
人事の立場で組織の未来に貢献

採用活動中は防衛省専門職の魅力をお伝えしたり、就職活動中のお悩みを伺ったりすることで、皆さんの進路決定の一助となることのできることにやりがいを感じますし、専門職として不可欠な説明力・発信力が向上したと感じます。また人事面談や異動調整等の過程で少しでも職員役に立つことができたときにも、大きな喜びを感じます。



志望者へのメッセージ

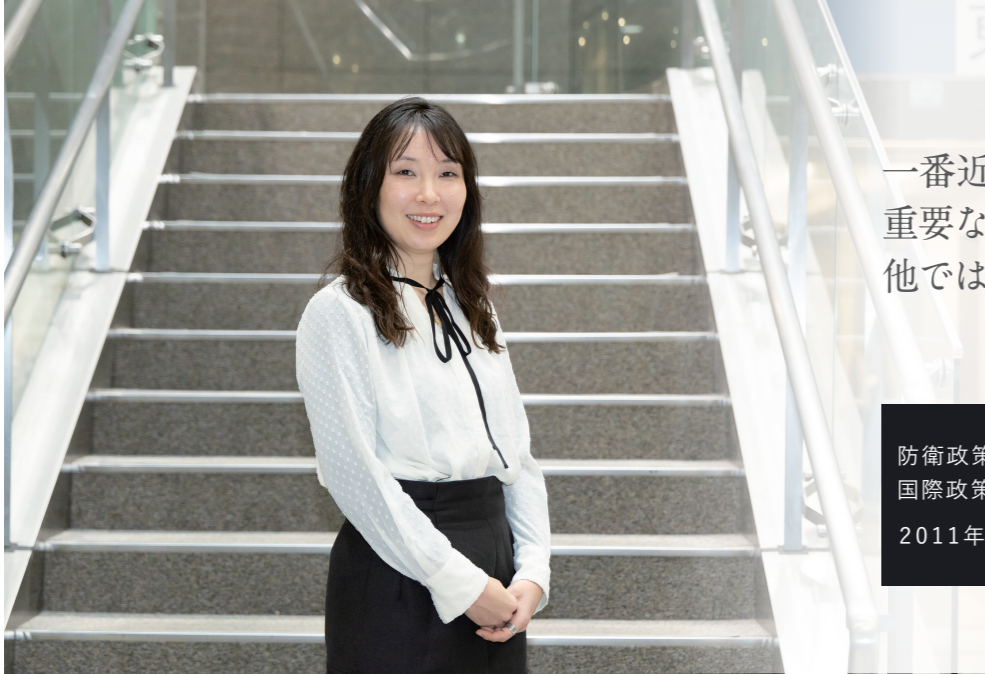
「好きこそものの上手なれ」のとおり、好きという原動力で突き詰めてきた得意分野を皆さんお持ちだと思いますが、仕事でも、まず「好き」という気持ちが最強の原動力になると思います。防衛省の仕事にビビっ！ときたらぜひ。



志望者へのメッセージ

就職活動中は大変なこと、不安なこともたくさんあると思いますが、自分の人柄や価値観、強み・弱み等を再発見することができる自己分析の過程は、個人的には楽しく面白いものでした。皆さんが就職活動を楽しみつつ、納得のいく結果に終わるよう応援しています。私も皆さんに防衛省専門職の魅力をより一層伝えられるよう頑張ります！





一番近くで高官の言葉を聞き
重要な局面に立ち会う
他では得難い経験ができます。

防衛政策局
国際政策課
2011年入省

高官通訳 Interpreter

国の根幹を支える防衛外交の最前線で 日本の未来が決まる歴史に立ち会う

留学で育んだ愛国心と語学力 日本の安全保障へ

高校卒業後、将来は国際的な仕事に携わりたいと思い英国の大学へ進学しました。現地での生活で世界からの日本に対する高い評価を肌で感じ、国に貢献したいという思いを新たにしました。帰国後は公務員の道を志し、中でも語学力を最大限に活かし、国家の安全保障を支えることができる防衛省への入省を決意しました。



高官会談の橋渡し役 言葉で日米の意思を繋ぐ

防衛大臣を中心とする高官の通訳として、会談から懇談や行事まで様々な場面に陪席、随行しています。例えば、高市政権発足直後のトランプ大統領来日に併せて行われた、ヘグセス米戦争長官と小泉防衛大臣による日米防衛相会談に、日本側通訳として同席しました。外交の最前線で、正確かつ円滑な意思疎通を支える役割を担っています。



防衛外交の最前線に立ち 言葉で日本の安全保障に貢献

この仕事の最大の魅力は、高官の近くで仕事ができることです。高官同士の会話を通じて、日本や世界の情勢が動く瞬間を目の当たりにしています。表舞台に立つことはない裏方の立場ではありますが、高官同士の対話を一番近くで聞く、重要な局面に立ち会うという経験は、ここでしか得られない極めて貴重なものです。もちろん、その重責を果たすためには語学力の研鑽に加え、防衛行政への深い理解が必要であり、常にアンテナを高く張って努力を続けなければなりません。しかし、自分の言葉が防衛外交の重要な橋渡しになるという責任を自覚し、少しでも円滑なコミュニケーションに貢献したいという一心で業務に取り組んでいます。

志望者へのメッセージ

防衛省に興味を持っていただきありがとうございます。防衛省はとても大きな組織で、職員の一一人が専門性を持ってそれぞれの任務を遂行することで成り立っています。高官通訳も数多ある業務の一つにすぎませんが、語学を活かし、最前線で組織に貢献できるという点でやりがいを強く実感できると思います。



他省庁への出向 Intergovernmental Assignments

大洋州諸国との連携を推進し 広い視点で安全保障を支える

外務省アジア大洋州局
大洋州課
2018年入省



豪州・NZとの安全保障協力 大洋州連携を牽引

豪州、ニュージーランド、太平洋島嶼国を担当する大洋州課に在席し、主に豪州との安全保障協力を担当しています。2025年9月には日豪2+2が実施され、豪州外務貿易省との共同声明の調整に奔走しました。また、情報保護協定や物品役務相互提供協定といった安全保障関連の協定の交渉や解釈も担当しており、先日ニュージーランドとの間で両協定の署名を行いました。

多層的な連携で 世界の平和に貢献

多極化する国際社会で世界のパートナーと多層的に連携することの重要性が増す中、外務省では、防衛分野に留まらず、広い意味での安全保障に携われるのが魅力です。他国との条約や協定といった国際約束の交渉・解釈という、他省庁では経験できない仕事もあり、責任の重さに身が引き締まる思いですが、スケールの大きさに日々やりがいを感じています。

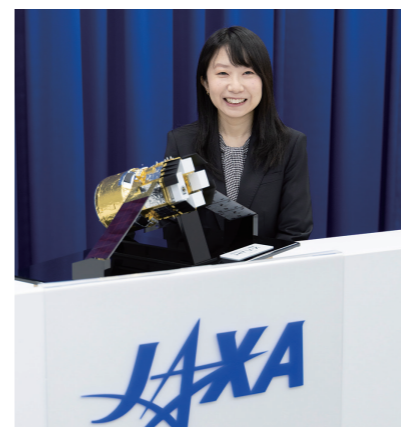
志望者へのメッセージ

我が国を取り巻く安全保障環境が一層急速に厳しさを増す中、同盟国に加えて同志国との連携を強化することは地域の平和と安定にとって不可欠であり、様々な国と安全保障協力を進める防衛省の果たす役割の大きさと重要性は日に日に増えています。皆さんの語学力や国際的な視点を防衛省は求めています。



JAXAと防衛省の連携を担い 宇宙安全保障の確保に挑む

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
経営企画部安全保障技術協力推進課
2016年入省



JAXAと防衛省の架け橋として 新型補給機の技術実証を支援

JAXAと防衛省の協力に関する調整や、国内外の防衛関係者の施設見学受け入れなどを担っています。防衛省は2025年10月に1号機が打ち上げられたJAXA開発の新型宇宙ステーション補給機(HTV-X)を活用した技術実証の取り組みを進めており、出向直後からその調整に携われたことは貴重な経験となりました。

国を挙げた宇宙防衛の強化 重要分野の連携を支える誇り

「宇宙安全保障の確保」はJAXAの主要な目標の一つであり、宇宙状況把握や海洋状況把握といった側面で積極的に貢献しています。一方で、航空自衛隊の航空宇宙自衛隊への改編が象徴するように、防衛省にとっても宇宙領域における防衛能力の強化は喫緊かつ重要な課題です。こうした注目度の高い分野の連携を担うことに、大きなやりがいを感じます。

志望者へのメッセージ

防衛省専門職員は、語学というツールを用いて様々な立場の人々を繋ぐ役割が期待されています。また、仕事を通じて国内外の幅広い出来事について見聞を広めることができる点は、入省後10年が経過した自分にとって今なお魅力的なポイントです。より深く、広い世界を知りたい方にこそ、是非挑戦していただければと思います。



海外勤務 Working Overseas

日豪の架け橋から究極の異文化体験まで
語学が拓く安全保障の最前線豪国防省における
交換職員としての挑戦

防衛省と豪国防省の間で相互に派遣される交換職員として、豪国防省で勤務しています。オーストラリア人職員と肩を並べ、豪州と太平洋島嶼国の防衛協力の推進に邁進しています。豪州は太平洋島嶼国と長きにわたって密接な協力関係を築いており、協力の在り方や対話の進め方など、日々学ぶことばかりです。

究極の異文化体験による刺激と
コアラに癒やされる休日

海外勤務の魅力は、究極の異文化体験を通じて成長できる点です。仕事への姿勢や環境が大きく異なる場所に身を置くことで、市ヶ谷では得られない気づきがある一方、これまでの積み重ねが活かせず苦心する場面もありますが、この刺激を成長の糧と信じて職務に励んでいます。休日に30分ほど車を走らせて自然保護区に行き、コアラを眺め、心身を癒やす時間も大切にしています。

防衛政策局国際政策課
日豪防衛協力推進室(豪国防省勤務)
2015年入省

志望者へのメッセージ

防衛省は多岐にわたる任務を担っており、特に本省内部部局ではそのあらゆる局面に携わるため、私も様々な経験をしてきました。自身の能力不足を痛感することも、逆に「自分はこんなことができたのか」と嬉しい驚きもありました。国民の生命・財産を守り、次世代へ日本を引き継ぐには多様な才能が必要です。皆さんと共に仕事ができる日を楽しみにしています。

ミサイル防衛システムの調整を担う矜持
米国で得た刺激を次なる防衛協力へ日米共同開発を支える
弾道ミサイル防衛の調整役

弾道ミサイル防衛連絡官として、米国のミサイル防衛庁(MDA)と防衛省の間で、日米ミサイル防衛協力に関連する調整業務に従事しています。具体的には、2023年の日米首脳会談で発表され、現在日米共同開発を実施している滑空段階迎撃用誘導弾(GPI)を含む様々なミサイル防衛システムにかかる日米調整の支援などを実施しています。

米国の最先端防衛システムと
政治の中枢に触れる経験

米軍基地や防衛産業関連施設に実際に足を運び、質・量ともに世界の先頭を走る米国の防衛システムへの知見を深められること、そして何よりワシントンD.C.という米国政治の中心で過ごすことで、様々な刺激を得られる点が魅力です。帰国後は米国勤務で得られた経験や人との繋がりを業務に活かしていきたいです。

防衛政策局戦略企画参事官付
(米国ミサイル防衛事務所勤務)
2019年入省

志望者へのメッセージ

語学力を活かせる仕事にも多くの選択肢があると思いますが、日本の人々の平和な暮らしを守る、という任務に携われる防衛省という職場はとても魅力的なものと感じています。その規模の大きさから様々な業務に関わることができるので、たくさんのチャレンジしがいのある課題に出会えると思います。皆様と一緒に働ける日を楽しみにしております。



英国留学で築いた
ネットワークや経験を活かし
平和と安定に貢献。

防衛装備庁
装備政策部国際装備課
2018年入省

海外留学 Study Abroad

各国の実務家や研究者と対話を深めた経験が
日本と国際社会の平和と安定に貢献する道筋に留学でのネットワーク構築が
今後の業務に生きる

実務に従事していると、誰しもが課題や疑問に直面することがあります。一度実務から離れて学術界に身を投じ、自らの関心や疑問を探究することで、新たな気づきや公務の糧となるものが得られると思ったこと、また、今後の業務に生きるネットワークを世界中に構築することができると思い、留学を希望しました。



志望者へのメッセージ

自分が何をしたいのか、どのような業界や組織に勤めれば正解なのかを迷うこともあれば、周りに翻弄され、友人と比較して焦ることもあるでしょう。しかし、就職活動の解は自分に真に向き合い自分の本質を見極める中にあります。周りの言葉や状況に惑わされることなく、満足がいくまで自分と対峙してください。将来一緒に働けることを楽しみにしています。

日本の立場をどう伝えるか
協力をどう深めるか 議論の日々

英国のKing's College Londonで安全保障学を専攻しました。英国は2021年と2025年に空母打撃群をインド太平洋に展開しましたが、欧州の秩序も守れておらず、財政状況も厳しい英国が、遠方のインド太平洋に関与する余裕はあるのか、その必要性は本当にあるのかといった声が聞かれることがありました。アジアとは地理的に距離があり、脅威の優先順位が異なる英国で、私は防衛省職員として、日本の立場や考えを如何に適切に伝え、日本の安全保障に資するよう、如何に東アジアへの関心をもう少し向けてもらい協力関係を築くことができるかといったことを考えながら日々議論を交わした留学生活でした。

欧州の視点から安全保障を学び
日本の将来を考える

不安定な欧州情勢下でEU離脱後の自らの進路・世界での役割を模索する英国の姿は、厳しい安全保障環境と経済課題に直面する日本とも通ずるところがあると思います。一筋縄ではいかない課題に向き合い、各国の実務家や研究者と議論を重ねた経験は、今後の公務にとって大きな財産となりました。この経験を糧に、多角的な視点を持って日本及び国際社会の平和と安定のために貢献していきたいと思っています。



特集2：次期戦闘機の

日英伊共同開発 (GCAP)

防衛省では、F-2 戦闘機の後継機となり得る戦闘機を2035年頃に配備できるよう、イギリス、イタリアと共に次期戦闘機の共同開発を進めています。この3か国によるプロジェクトを、「GCAP (Global Combat Air Programme/グローバル戦闘航空プログラム)」と呼んでいます。この取り組みに国内外で携わる専門職員が、その思いやりがいについて語りました。



次期戦闘機—「国際協力を視野に我が国主導の開発」を

「航空優勢」*の確保のため、戦闘機が我が国の周辺空域に迅速に展開し、より遠方で、進行してくる敵の航空機やミサイルによる航空攻撃に対処できる態勢を整えることが極めて重要です。

周辺国でも第5世代機の開発などが進んでいる中で、将来にわたって「航空優勢」を確保するためには、未だ実現されていない新たな戦い方を実現でき、適時適切な能力向上のための改修や、高い即応性等を確保できる国内整備基盤を有する次期戦闘機の開発が必要不可欠となっています。

日本、イギリス、イタリアの3か国の技術を結集し、コスト・リスクを

分担しながら優れた戦闘機の開発を推進しています。

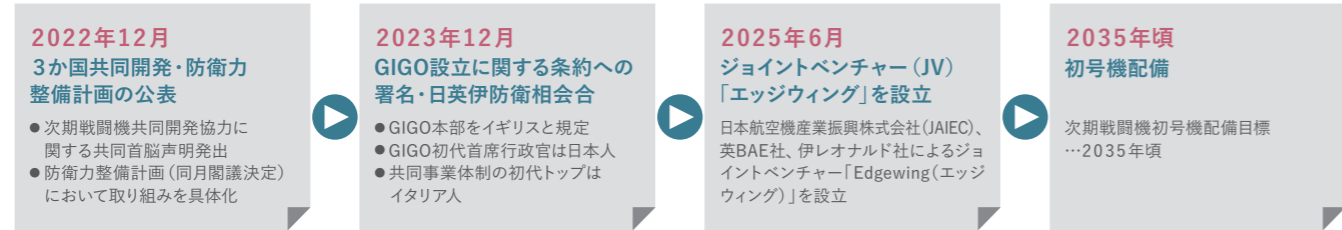
*「航空優勢」…武力攻撃が発生した場合に、味方の航空機が大規模な妨害を受けることなく諸作戦を遂行できる状態のこと。

日本、イギリス、イタリアの3か国で共同開発する意義

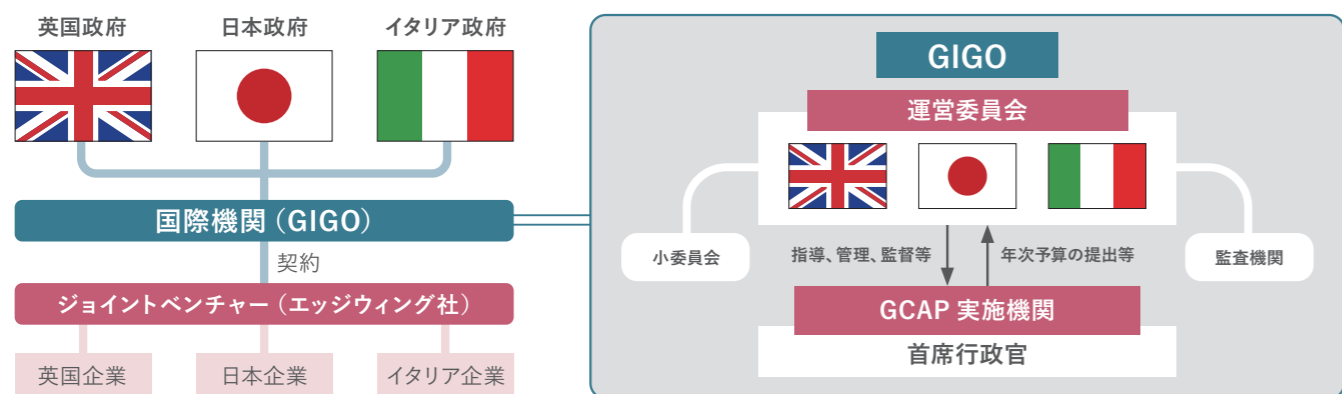
この3か国には、自由、民主主義、人権、法の支配といった共通の価値に基づいた、長年の緊密な関係があります。GCAPを通じ、3か国の防衛協力関係を一層拡大するほか、防衛産業基盤を一層強化でき、より広範な経済的、産業的利益をもたらすことで3か国の雇用や暮らしを支えることにも繋がります。

GCAP TIMELINE

※将来の記載は検討の一例



協業体制のイメージ



職員の活躍

専門職員がどのようにGCAPに携わっているか、その一部をご紹介します。

防衛省にて

本省内部部局採用の職員の中には、防衛装備庁に出向して勤務する職員がたくさんいます。中でも、防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官(次期戦闘機担当)付に所属する職員が、あらゆる側面からGCAPに携わっています。



プロジェクト管理部
事業監理官
(次期戦闘機担当)付
国際事業調整官
2002年入省

プロジェクト管理部
事業監理官
(次期戦闘機担当)付
係長
2013年入省

プロジェクト管理部
事業監理官
(次期戦闘機担当)付
係長
2015年入省

プロジェクト管理全般の 日本側次席交渉官

GCAPには立上げ当初から関わってきており、現在はプロジェクト管理全般の日本側次席交渉官を任されています。常日頃からGIGOや英伊の関係者と緊密に連携し、プログラムの進展のための諸方策等について日々議論・調整しています。

国際共同開発が拓く 国防の新たな歴史

GCAPは防衛省・自衛隊の歴史において類例のない英伊との大規模国際共同開発であり、日々未知の課題に直面しています。しかし、壁を乗り越え一つずつ完遂するたび、日本の新たな国際協力の歴史が



紡がれていると実感します。この大規模プロジェクトの一翼を担える誇りを胸に、日々邁進しています。

日本側のファイナンス(財政)を 担当

GIGOの活動に必要な予算の確保に向けた調整や、資金管理のあり方に関する日本側のファイナンス(財政)を担当しています。また、GCAPには、3か国が予算を拠出していますが、タイムリーに予算を拠出できるように他省庁を含む関係各所との調整も実施しています。

日々動く歴史の最前線で 成長を実感

大規模なプロジェクトが目の前で日々動いていく様子を見ることができ、また、その一端を担うことができるのに充実感を覚えます。事務官を始め技官や自衛官など様々なバックグラウンドを持った同僚や上司と働き、新しい視点で物事を考えることを学び、自分自身の成長に繋がっていると感じています。



大臣会合運営や 会議発言内容調整に従事

国際事業調整官の下で、大臣会合運営や会議発言内容調整に従事しています。特に、GCAPは日英伊3か国にとっての同盟国や同志国との協力を念頭に置いて設計されてきているため、第三国の参加についての考え方の検討も行っています。

初期メンバーとして挑む 刺激的な毎日

担当レベルでは小さな一歩かもしれませんが、目の前にあるハードルを英伊の担当者と一緒に乗り越えることで、着実に乗り越えています。戦略的意義が極めて大きい本事業に初期段階から参画し、国境を越えた連携の中で自らの役割を果たす日々は、非常にエキサイティングで大きな手応えを感じています。



GIGOにて

GIGO(所在地：英国レディング)でも本省内部部局採用の専門職員が勤務しています。防衛省本省、防衛装備庁の職員や現地の職員と連携しながらGCAPに携わっています。



グローバル戦闘航空プログラム政府間機関(GIGO) 2017年入省

効率的な組織運営を目指して

GIGOのHuman Resources Officeに所属し、戦略的人員配置計画に関する業務に従事しています。各部署のニーズや希望を調整して、組織全体にとっての最善の計画を策定するのが主な役割です。部門間のバランスを取りながら最適な人材配置を検討し、GCAPの円滑な推進を支える体制の構築に日々注力しています。

組織文化の垣根を越えて形作る醍醐味

GIGOでは日英伊の3か国から派遣された職員が、GCAPの成功を目指し緊密に連携しています。異なる組織文化や背景を持つ精鋭が集まり、その差異を尊重し乗り越えながら、一つの構想を共に形にするプロセスに携われる点は、他では味わえない本業務最大の魅力だと日々実感しています。

ワークライフバランス

防衛省・自衛隊は、国家防衛戦略などにに基づき、ワークライフバランスを推進しています。計画的な年次休暇の取得はもちろん、手厚い育児・介護休業制度も完備。オンとオフを明確に切り替えられる規律ある環境で、知的好奇心を満たしながら、日本の安全保障を支える誇りと、充実した私生活を両立することができます。

ワークライフバランスを支える制度

年次休暇

年20日(4月1日採用の場合、採用の年は15日)。
残日数は翌年に繰越(20日まで)。時間単位で取得可能。

特別休暇

年末年始 / 夏季 / 結婚 / 忌引き / 人間ドック検診 等

GW・夏季・年末年始などに合わせた年次休暇の取得を推奨し、長期で休暇がとれるように取り組んでいます！

出産に関する休暇

産前・産後特別休暇 / 配偶者の出産特別休暇 / 妊産婦の保健指導・健康診断のための特別休暇 / 妊娠中の休息・補食のための特別休暇 / 通勤緩和のための特別休暇 / 出生サポート(不妊治療に係る通院等)のための特別休暇

育児参加のために利用できる制度

育児休業 / 育児短時間勤務 / 育児時間 / 育児参加のための特別休暇 / 保育時間確保のための特別休暇 / 子の看護のための特別休暇

その他の制度

介護休暇 / 配偶者同行休業 / フレックスタイム制 / テレワーク / 早出遅出勤務 / 超過勤務の制限 等

COLUMN

内局職員のための
育児サポート
プロジェクト
199

防衛省では、子育てをしながら働く全ての職員が、不安なく育児と仕事を両立できるよう、様々な取り組みを実施しています。

育児中の職員向けの
セミナー・交流会イベントに事務次官(当時)も参加



MESSAGE

「人生で最も幸せ」な育休を経て復職。時短勤務でも欧州担当や通訳として働いています。



防衛政策局国際政策課
2015年入省
活用している制度：育児時間
▶保育園のお迎えに間に合うよう、勤務時間を1時間30分短縮して勤務しています。

子どもの成長に寄り添った かけがえのない育休中の日々

約1年半の育児休業中、育児に専念できる時間を存分に楽しもうと思ひ、子ども中心の生活を過ごしました。仕事について考えることはほとんどなく、自己研鑽に使う時間ありませんでしたが、我が子が日々成長していく姿を見守るのはとても尊い時間であり、全ての瞬間が宝物でした。育休中は人生で最も幸せな時間だったように思います。

育児とキャリア形成の両立に向けた 様々な働き方に応えてくれる職場です

防衛省では、子どもがいる職員も個々の事情や意向に基づき、柔軟な勤務が可能であり、働き方も十人十色です。私自身は、時短勤務をしており、勤務時間に制約はありますが、時差のある欧州との防衛協力を担当する他、高官通訳業務にも従事しています。育児との両立だけでなく、個々のキャリア実現も応援してくれる温かい職場ですので、是非一緒に頑張りましょう！

1日のスケジュール

5:30 起床、支度
6:00 娘起床、支度
7:15 出発
7:30 保育園送り
9:00 登庁
16:15 退庁
17:30 保育園迎え
17:45 帰宅
20:00 寝かしつけ
20:30 家事、勉強
22:00 就寝

試験概要

採用試験スケジュール例



試験方法

	試験種目	内容
第1次試験	基礎能力試験	公務員として必要な基礎的な能力(知能及び知識)についての筆記試験 【多肢選択式】知能分野24題(文章理解⑩、判断推理⑦、数的推理④、資料解釈③) 知識分野6題(自然・人文・社会に関する時事、情報⑥)
	専門試験(英語)	各試験区分に応じて必要な専門的知識などについての筆記試験 【記述式】英語：5題(英文解釈②、語彙問題①、英文法①、英作文①)
	論文試験	課題に対する総合的な判断力、思考力及び表現力についての筆記試験
第2次試験	口述試験	人柄、対人的能力などについての個別面接
	身体検査	主として胸部疾患(胸部エックス線撮影を含む)、尿、その他一般内科系検査

試験区分

英語

受験資格

- 試験年度の4月1日における年齢が21歳以上30歳未満の者
 - 試験年度の4月1日における年齢が21歳未満の者で次に掲げる者
 - 大学を卒業した者及び試験年度の3月までに大学を卒業する見込みの者並びに防衛省がこれらの者と同等の資格があると認める者
 - 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び試験年度の3月までに短期大学又は高等専門学校を卒業する見込みの者並びに、防衛省がこれらの者と同等の資格があると認める者
- ※防衛省専門職員採用試験の詳細な情報については、必ず防衛省ホームページ(採用情報)で最新の情報をご確認ください。

採用Q&A

Q. どのような人物像が求められていますか？

A：安全保障上の課題が複雑化・多様化する今日において、防衛省・自衛隊の国際的な取り組みは広がりを見せています。そのような中で、グローバルな視野と英語力を活かして、安全保障政策に貢献したいという想いのある方、組織の中で主体的に考え、物事を進めることができる方、コミュニケーション能力があり、国内外のカウンターパートと円滑に調整できる方を求めています。

Q. 本省内部部局勤務の総合職・一般職と比べて、どのような違いがありますか？

A：防衛政策の企画・立案に携わるという点では総合職・一般職と同じですが、米国をはじめとした諸外国との防衛協力・交流といった英語力を要する国際的な防衛行政に主に携わることになります。また、中には若手のうちから翻訳業務や通訳業務に従事する職員もいるほか、高度な通訳技能を有する場合には大臣等の高官の通訳を担うチャンスもあります。

Q. 過去の試験問題は入手できますか？

A：情報公開制度に基づいて請求することができます。詳細は、防衛省ホームページをご確認ください。
※お手元に届くまでに、2ヶ月程度かかりますので、ご注意ください。 ※論文試験問題は、防衛省ホームページにて公表しております。

Q. 留学経験・海外生活経験がないのですが、採用されますか？

A：留学経験・海外生活経験のある職員もいますが、経験の有無により採用の可否を判断することはありません。これまでの経歴に関わらず、専門職の業務にご関心のある方は、積極的にご応募いただければと思います。なお、入省後に海外留学・海外勤務のチャンスもあります。

Q. どれくらいの英語力が必要とされますか？

A：採用時においては、採用試験に合格できる英語力があれば十分ですが、入省後は、諸外国との調整や通訳業務を行うための高度な英語力が求められます。入省後の通訳研修や実際の業務経験を通じ、英語力をより高めていくことになります。

Q. 安全保障や防衛行政に関する専門知識は必要ですか？

A：業務を通じて身につけていくこととなりますので、入省前から必ずしも専門的な知識が必要というわけではありません。学生時代に他分野を専攻していた職員も、入省後に日々専門知識を勉強し、政策の企画・立案に従事しています。

Q. 既卒でも採用されますか？

A：本省内部部局採用専門職は、新卒のみならず、既卒の方や社会人経験のある方も採用されており、様々なバックグラウンドを持つ職員が活躍しています。受験資格を満たしていれば、学歴や新卒・既卒、年齢等は採用の選考基準とはなりません。受験資格の詳細については、防衛省ホームページをご確認ください。